

2026(令和8)年度 松山短期大学一般選抜試験問題『簿記・会計』解答

問1

損益計算書		貸借対照表	
X5年4月1日からX6年3月31日まで		X6年3月31日	
売上原価	(2,790)	売上高	(4,080)
給料	725	受取手数料	260
貸倒引当金繰入	(14)	(雑益)	(3)
通信費	21		
減価償却費	(100)		
保険料	(144)		
支払利息	(4)		
社債利息	(10)		
有価証券評価損	(12)		
法人税等	(200)		
当期純利益	(323)		
	<u>4,343</u>		<u>4,343</u>
		現金	525
		当座預金	(418)
		売掛金	(480)
		貸倒引当金	(24)
		有価証券	(220)
		商品	(250)
		(前払保険料)	(36)
		建物	(1,000)
		減価償却累計額	(60)
		備品	(500)
		減価償却累計額	(180)
		土地	300
			<u>3,465</u>
		買掛金	486
		借入金	(200)
		未払利息	(4)
		未払法人税等	(110)
		社債	(192)
		資本金	1,500
		資本準備金	300
		利益準備金	30
		繰越利益剰余金	(643)
			<u>3,465</u>

問2【解答例】

- 1) 従業員が出張から戻り、旅費の精算を行った。概算払い額500円のうち、旅費として490円を支払ったと報告を受け、残額10円を現金で受け取った。
- 2) 注文していた商品790円が到着したので、船荷証券と引き換えに商品を受け取った。なお、引取運賃10円は現金で支払った。
- 3) 支店より、本店の買掛金300円を立て替えて支払った旨の連絡を受けた。
- 4) 給料800円のうち、源泉徴収額200円を差し引いた残額を、従業員に現金で支払った。

問3【解答例】

継続性の原則は、1つの取引に対して2つ以上の会計処理の原則または手続きの選択適用が認められている場合、企業がいったん採用した会計処理の原則または手続きは、每期継続して適用し、みだりに変更してはならないことを求める原則であり、これにより、意図的な利益操作を防止し、企業会計の真実性を保とうとするものである。